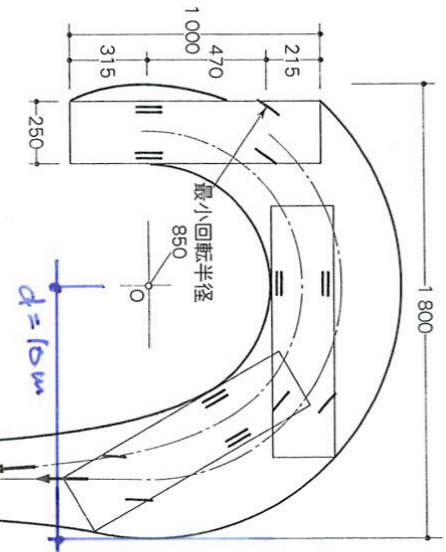


S:1/600

大型車両の回転軌跡③

バス・トラックの回転軌跡は、基本的には乗用車と同様であるが、前車輪切れ角をやや大きめにとり、回転半径を最小限におさえるくふうがなされている。車体寸法は多様であるため、ここでは建築現場などでよく見られる10トントラックの90°回転軌跡および路線バスの180°回転軌跡をとりあげるとどめた。また可動連結部をもつため、特殊な軌跡を描くトレーラー車の180°回転軌跡も併せて示してある。



S:1/300

路線バス180°回転 (乗車定員83人)

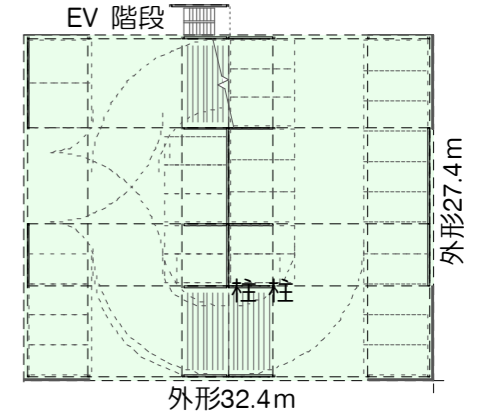
議題02.

街とつながる新しい本館の活動と環境のかたち。
9月24日策定委員会質疑の追加的検討：自動車アクセス環境

- 現状のロータリー形状でバスの回転が可能か (参考敷地図は、厳密なスケールか未確認だが)
 - ・円形緑地から車道の外形まで、 $d=11.3m$
 - ・2.5m歩道を車道化拡張すれば、 $d=13.8m$
 - ・83人乗用大型路線バスの回転、 $d=10m$ OK
 - ・近年車種により最小回転半径がさらに小さい。バス会社に聞いて確かめることができる。
 - ・ミニバスの回転なら問題ないと考えられる。
- 歩車分離の道路環境への再整備
 - ・バスベイの拡張には北側宅地の公開空地後退で、歩道の移動に伴う再整備が想像できる。
 - ・学校敷地への車道にも歩道整備が必要だろう。

- 自走式スキップ床型立体駐車場の参考寸法について
 - ・上記敷地に下記型など駐車場を置き、図書館本館の機能を満足させた施設配置計画は難題になるだろう。

- ・規格外形寸法、 $32.4m \times 27.4m$
- ・建築面積： $900m^2$
- ・各階収容台数、32台
- ・2層屋上利用で 約100台
- ・3層で 約130台
- ・外部エレベーターが必要。



*1 日本建築学会編：建築設計資料集2集, pp.334, 335 (1960), 丸善より作成。